

卒業認定の方針

以下の能力を備え、学則に定める修了要件を満たした者に修士（心理学）の学位を授与する。

- ①臨床心理面接や臨床心理査定に関する理論とスキルを身につけて、それを実践へ移すことができる。
- ②臨床心理学の高度な学識に基づいた柔軟な理解・判断能力を身につけている。
- ③臨床心理学の近接関連領域にたいする持続的な関心と理解力を備えている。
- ④豊かな人間性と、対人援助における倫理観を身につけている。
- ⑤論理的思考能力をもって独創的な成果を研究論文としてまとめる能力を有している。

卒業認定の方針

以下の能力を備え、学則に定める修了要件を満たした者に修士（看護学）の学位を授与する。

- ①仏教の精神に基づき、人間の理解と援助者としての在り方を深く洞察し、誠意と謙虚な精神で行動できる看護実践者、教育・研究者である。
- ②看護実践の研究的検証を通して、看護学のさらなる発展に寄与できる看護実践者である。
- ③グローバルかつ学際的視点から研究的、創造的に看護の探究、エビデンスに基づいた援助技術の開発に参加できる。

卒業認定の方針

「助産学専攻科」においては、高度な専門性、思考力、真摯な態度と向上心、自律心と国際性、を持った助産の専門職の養成をめざすという基本理念の下、以下の基準を満たした学生に修了証書を授与する。

1. 高度な専門性

- ・助産実践に必要なエビデンスに基づいた判断力と実践力を身に付けている。
- ・女性が安心して子どもを産み育てられる環境を整えるために、多職者と連携・協働できるコミュニケーション能力を習得している。

2. 思考力

- ・ケアの質向上が図れるために、助産実践を科学的に検証、追求し、論理的に考察できる科学的探究方法を理解している。
- ・医療の高度化、多様化する価値観やニーズを理解・尊重し、その対応について考察できる。

3. 真摯な態度と向上心

- ・生命の誕生にかかわる者として、いのちの重みや尊さを実感し、助産師としての自己を高める方法を身に付けている。
- ・慈悲の心を身に付けている。

4. 自律心と国際性

- ・女性の生涯にわたる健康づくりを支援し、地域の母子保健の発展に貢献できる。
- ・国内外で求められる助産師の役割や責務を認識し、助産や社会の発展に貢献することができる。